

平成26年度採択 領域開拓プログラム(公募型研究テーマ)
◆課題：「D:行動・認知・神経科学の方法を用いた、人文学・社会科学の新たな展開」
◆研究テーマ：「歴史科学諸分野の連携・総合による文化進化学の構築」

<研究代表者>

井原泰雄：東京大学大学院理学研究科／講師

<専門分野> 進化人類学

<Webページ>

<http://www.bs.s.u-tokyo.ac.jp/~shinkajin/>

<異分野間での研究プロジェクト運営>

方法や価値観に違いのある異分野間の連携は容易ではない。本研究は、異分野連携に意欲的な研究者が集まって始動したが、相互の学会等での研究発表などを通じ、徐々に「シンパ」を増やしていくことができた。比較的連携の進んでいる海外の研究者を招聘し、セミナー等を開催するのも有効だと思う。

<研究目的、概要>

「人文学・社会科学固有の問題」でもある文化の歴史を理解することは、人文学・社会科学にとって最重要課題の一つである。しかしこれまで、この文化の歴史は細分化された視点からの個別研究が蓄積されるのみであり、それらを総合するような視点を欠いたままであった。本研究は人文学・社会科学・自然科学の知見・手法を動員し、文化の歴史を総合的に考察する文化進化学の構築を目的とする。

細分化された視点を束ねて総合を図るうえで、何らかの共通の理論的枠組みが不可欠である。本研究では、1980年代以降に発展してきた、現代的な文化進化の理論を中心に据え、これを軸に隣接領域の研究者が共通のことばで議論できる土壌をつくることを目指した。

<研究成果、波及効果等>

主たる研究成果として、『文化進化の考古学』という書籍を出版することができた(勁草書房, 2017年)。この書籍をベースにした国際シンポジウムも2017年夏に開催し、関連する国内外の研究者が集まって活発な議論が行われた。また一部の研究についてはプレスリリースを行うことができ、一般にも高いインパクトをもたらすことができた。

本研究プロジェクトが一つのきっかけとなり、考古・人類学データを進化的・定量的視点から考察するプロジェクトがいくつか進展している(古墳時代鉄鏃の幾何学的形態測定研究プロジェクトなど)。また研究プロジェクトに関わった若手研究者は2018年度育志賞も受賞している。

